

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370103212		
法人名	有限会社キョーシン福祉会		
事業所名	みずき苑		
所在地	熊本市北区龍田5丁目12番4号		
自己評価作成日	平成28年3月16日	評価結果市町村受理日	平成28年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成28年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

民家改造型の建物で、施設というより我が家と言う家庭的なホームです。住宅地の高台にあるため、景色が良く九州山脈を望む絶景地で、朝日が昇るのを見ることが出来ます。今までの生活と同じような環境で生き生きと生活ができる様、入居者様との関わり方を考え、生活の中に満足感と安心感があるサービスをと考えています。研修会でも、各職員がスキルアップが図れるような環境作りに努めています。又、地域の行事に参加し、地域の理解を深め、地域の中で生活できる施設作りに職員一同心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

民家を改修して開設15年を迎え、入居者の最終章に悔いが残らないようにとチームケアの重要性や入居者の人生観を尊重し、“いっしょに歩ければいい・いっしょに笑えればいい、それだけでいい・それだけがいい”とする目標を持って真摯に取り組んだ一年である。現在も100歳を目指す入居者も臥床中心となっており、“ホームでの最期を”とするその思いに応える職員の姿勢に敬意を表したい。入居者の「ありがとう」の感謝の言葉を励みとして、身体介護中心であり、外出もままならない現状もあるが、その人らしい生活を念頭に個別ケアや脳トレ・ラジオ体操・DVD鑑賞や、テラスでの外気浴等が入居者の笑顔を引き出している。また、定期的なボランティアやキッズサポーターとの交流の継続、職員も地域サロンに協力する等地域との関係性も深まりを見せており、今後も入居者が地域の中で“らしく”生活されるであろうと大いに期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症の方の人権を尊重したケアを基本とし、理念に沿った目標の具体化に努めている。 職員へ施設の考え方を啓発し、職員教育に努め、勉強会時に理念を唱和している。	開設時からの理念を継続し、“その人らしい”を方針として、その方々にあったケアを目標としてこの一年真摯にケアに取り組んでいる。職員の入れ替わりもある中で、“いっしょに歩けばいい・いっしょに笑えばいい”を目標として、タームナルケアを見据え、本人の人生観の尊重とともにチームケアの重要性を視点に研修を行いながら、理念を共有している。	入居者の笑顔、笑いが出ることが理念の実現として捉え、毎年理念及び目標を振り返っている。年間スケジュールのもと、勉強会が開催されており、この中で理念について考えてみることを検討いただきたい。開設から一五年の時の流れや、入居者及び職員の変更という面からも理念を見直すこともよいと思われる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の掃除当番や小学校との交流に取り組んでおり、みずき苑だよりの回覧や、ボランティアの訪問等で交流を継続している。	開設して十五年、ホームの存在は地域の中には浸透している。また、地域サロンを手伝うことで人脈ができ、近隣住民からの野菜のおすそ分けやボランティア(折り紙)の定期的な訪問、及び認知症キッズサポーターの子どもたちの訪問による交流に努めている。回覧板や広報誌が回ってくる一方で、ホームも苑便りを地域に回覧し啓発に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方へボランティアを依頼し、毎月1回来苑して頂き、入居者と触れ合うことで理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、苑だより等を利用し、活動報告を行っている。その際、自治会や包括の担当者より意見を伺い、対応している。	運営推進会議は、活動や入居者の状態の説明後、フリートークとして定期的に開催している。代表は、法人としての今後の取り組みを説明したり、地域包括支援センター職員の意見及び担当地区の状況発信や、地域高齢者問題等の意見交換が行われている。	2か月毎に開催されており、毎回議事録を残し、会議の内容を職員全員が共有し、運営に反映されることを期待したい。更に、ホームの課題をテーマにした話し合い等も検討いただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者に電話等にて相談・助言をもらい、情報の共有に取り組んでいる。	市本庁よりインフルエンザ対策のアドバイスを得たり、集団指導や地域包括主催の研修に参加している。また、地域包括主催のキッズサポーター養成研修に職員も協力している。	介護相談員制度の利用も検討され、今後も行政との協力関係を継続いただきたい。また、市担当部署に時には運営推進会議への参加も促すとよいでしょう。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を利用し、身体拘束廃止へ向け、職員の理解・浸透を図り、朝礼時のミニカンファを実施し、職員の意識付を行っている。	身体拘束について繰り返し勉強会を開催することで、意識を強化させている。夜間帯の多動に、その場の職員で検討したり、帰宅願望「帰ろうか」には一緒に歌う等、別の観点からケアを行ったり、声掛けを工夫し、抑制の無いケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間での共通認識を図り、確認の場を設け、統一を実施している。 又、事業所内にパンフレットを掲示している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	玄関・事業所内に権利擁護や成年後制度のパンフレットを置き、職員・家族の方等、いつでも見れるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書等で、詳しく説明し、また改定時には同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置し、意見を反映できるようにしている。また、来苑時には、要望等がないか確認を行っている。	家族の来訪時に近況報告とともに意向等を尋ね、ホーム側から方向性を投げかけたり、提案している。家族との集いは、家族同士の交流、職員との親睦会として生かされている。また、利用者から家族へのプレゼントが渡されることにホームの特長が表れている。意見箱の他、家族からの相談や苦情は苦情相談簿に残し、精査する体制であるが申し出は無い。	ケアプラン作成時にも電話等で連絡し、意見や要望を聞き取りしているが、「今のままで」とのようである。家族との集い時に、話し合いの時間を作り、忌憚のない意見や要望を収集されることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は朝のミーティングや勉強会の際、現場の意見を聞き、代表者と協議し業務に活かせるよう努めている。また、連絡帳で職員に周知している。	管理者は個別面談を行い、職員の意見や要望は代表者への上申や協議する体制としている。また、日々の申し送りを徹底し、徹底事項は申し送りノートを活用し(色分けによる)周知を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者・ケアマネージャーとの連携で、個々の状況を把握し、内部での勉強会の推進・外部研修への参加を推進している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・ケアマネージャーとの連携で、個々の状況を把握し、内部での勉強会の推進・外部研修への参加を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内での勉強会・外部研修会への参加。グループホーム連絡協議会に参加し、意見交換・情報収集に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	観察を細やかにしながら、どこに支援が必要かアセスメントを行い、常に笑顔で接し、「暖かな雰囲気の中でホッとできる」環境の提供に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを傾聴し、アセスメントによりプラン作成を心がけ、同意を得ている。 また、来苑時には、近況報告を実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の情報(診療情報・サマリー)等や面談によりアセスメントを行い、必要な支援が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事としたい事に注目し、生活を共にする気持ちを大切にしている。 入居者のこれまでの生活を理解し、お互い支え合い、共感できるような関係の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各行事毎の際には、ご家族の参加をお願いし、本人と家族の触れ合う時間を作っている。 面会時にも心地よく過ごして頂けるよう、雰囲気作りや情報交換を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の方や親族の方の来苑を歓迎し、ゆっくりと触れ合える環境作りに努めている。	馴染みの場所へ出向くことが困難な状況中であり、家族や近所付き合いされていた方が定期的に訪問されており、ホームに足を向けられるよう環境を整えている。思い出話の中に生まれ育った場所が上ることもあり、利用者同士、職員との関係が馴染みの関係性が築かれ、銀行への外出支援等社会性を継続させている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の性格・個性を把握し、スムーズにコミュニケーションが取れる様に気配りしている。 環境作りに配慮し、利用者の「居場所」を大切に考え支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、家族がいつでも相談できる様関係の継続に心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時や、家族来苑時に本人・家族より希望や要望を伺い、その希望・要望に添えるよう支援を行っている。	認知症状が進行し、意思疎通困難な状況や会話はあるものの真意かどうかの見極めが難しい現状にあり、職員から選択肢を投げかけながら、本人の思いを実現させている。また、家族の訪問時に希望や要望を聞き出し、プランに反映させるよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、基本情報聴取やアセスメントを行い、把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活状況について、経過記録や担当スタッフとのモニタリングにより、現状の把握・確認に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、介護計画に対する担当スタッフのモニタリングにより、ケアの在り方について相談したり、家族来苑時に意向確認を行い、プランに反映させている。	入居者及び家族に意向等を聞き取りしているが、あまり申し出もない現状に、職員の気づき・観察の結果をサービス内容に反映させている。毎月担当職員とケアマネジャーにより目標に対する結果を分析し継続可否を見極め、変化があれば再作成することとしている。また、介護保険更新に合わせた定期見直しと、入退院に合わせその都度アセスメントから見直し、現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や業務日誌に記入し、毎朝カンファレンスを行い、連絡ノートを活用し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・訪問歯科の利用 ・訪問美容の利用 ・ボランティアの活用等		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月、ボランティアの訪問を実施しており、先生方の協力の下、楽しい時間を過ごしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認し、事業所のかかりつけ医の説明も行い、希望に沿うよう支援している。	身体状況の面から殆どの方が協力医療機関による往診であるが、家族対応によりこれまでのかかりつけ医を受診される方もおられる。往診時に皮膚科などの受診を伝えられた場合は、ホームで対応し家族へも説明をしている。職員は歯磨きや義歯の洗浄・管理など口腔ケアに努め、必要に応じ訪問歯科も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきがあれば管理者・ケアマネに直ぐ連絡・報告を実施している。 連絡ノートで職員には周知し、健康管理をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、情報提供を行い、退院の際は、事前に訪問し、情報聴取を行い、かかりつけ医への情報提供や、職員への周知を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	随時、主治医と家族との面談を設定し、治療方針や終末期ケアについて説明し同意を得る。 また、プランにも取り上げケアの統一を図る。	入居時に看取りの意思確認書を交わし、体調の変化が生じた時点で、再度話し合っている。今年度も長年ホームでの生活を生活されていた入居者をはじめ、4名の方の最終を支援している。支援後には、家族や医師の意見をもらっており、日々のケアの重要性を新たに、悔いが残らないケアを全職員で再確認している。	職員の看取りに関する質問事項を協力医に渡し、研修会の開催を予定していたが、実現に至っていない。家族は馴染んだホームで出来る支援による看取りを希望されており、今年度は事例もあることから計画されていた研修会の実現が期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で、初期対応を実施しており、実際に訓練も実施している。 緊急時対応の本を常備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間、夜間自主訓練を年2回実施し、消防署参加の訓練を実施している。	27年3月の自主訓練による避難訓練後は実施されていない。台風や積雪時は職員が泊まり込み対応を行っており、食料と卓上コンロなどを備蓄としている。	入居者の安全確保は最重要であり、今後は自然災害も含め、年2回の訓練や災害対策についての研修会の実施に期待したい。また、立地や民家改修型という構造上からもコンセントの埃など日々の安全管理や、地域の人々の訓練への参加など、協力体制を強固なものとしていかれることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇や個人情報保護について勉強し、言葉使い、身だしなみ等、意識の統一を図っている。 個人情報の保護・利用目的等を家族に説明し、同意を得ている。	個人情報やプライバシー・接遇に関する研修会を行い、入居者に対して失礼の無い対応など周知徹底している。また、勤務中はアクセサリー（ピアス・指輪など）を外すことは、「介護者として当然の事項」として、管理者より指導が行われている。呼称は女性入居者の場合、下の名で呼んだほうが安心される事もあり、会議の中で検討し共有している。個人情報については、家族の了解を得使用しており、面会も個人記入としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が判断し易い声掛けを心がけており、日頃より好みの湯呑や茶碗等を使用している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションや入浴等の要望を聞き、状態に合わせて、自由に決めて頂いている。ゆったりとし他時間が流れるよう利用者優先の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装等、季節・好みに合わせて応じ、入浴後は個人の化粧水を使用して頂き、整髪も2ヶ月に1回訪問して頂き、好みの髪型への要望にも答えられるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け・配膳・下膳等、出来る範囲で手伝って頂き、職員と一緒に食事をしている。 調理前には、入居者より、リクエストをして頂き、対応している。	献立は入居者の嗜好を取り入れ、「魚はどんなふうにして食べたい？」など、選択肢を投げかけながら調理法を検討している。食材は代表者が鮮度を見極め購入しており、刺身等生ものも提供されている。職員は健康面に配慮しながらも家庭的な味付けや、庭先の木の芽を使うなど旬を味わうよう工夫している。身体状況から形態も様々であり、本人のペースで介助し、職員は検食や持参した弁当と一緒に摂っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分チェックノートを作成し、状態に応じて支援をしている。 朝・昼・夕・就寝前に水分補給を行い、高血圧の方には塩分控えめに努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々のレベル・状態に合わせ、口腔ケアの声かけ・支援をしている。 訪問歯科をりょうしたり、馴染みの歯科へご家族が「同行される等、個々に対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	重度の方も、昼間はトイレやポータブルトイレで排泄することで、尿路感染予防に努めている。 また排泄パターンを把握し、時間やしぐさ等様子を見て、声かけや誘導を実施し、夜間も同様に行っている。	排泄は時間やしぐさ、表情などから察し、声かけや誘導を行っている。また、ベッドでの生活が中心になられた方にも、自室のポータブルトイレでの排泄を支援し、使用の都度洗浄を行っている。排泄用品は個々に応じたものを検討し、リハビリパンツやテープ式おむつ、パットの併用など個別に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維等を多く取り入れ、散歩や体操等運動することで、自然排便できるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、入浴ができる様支援しているが、最低でも週に3回は入浴して頂き、その日の体調にあわせ、清拭・足浴・シャワー浴を実施している。	毎日入浴を準備し、2名介助により週3回程午後から支援している。また、体調や発汗などによっては清拭や足浴・シャワー浴を取り入れながら清潔保持に努めている。民家改修型のホームであり、段差のある浴室は双方の負担も大きいですが、チームワークや職員が工夫しながら、入居者にゆっくりとした入浴を楽しんでもらうよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、体操やレクリエーション等で活動性を向上させて頂き、体力が低下されている方へは、ベット上にて可動域訓練等を実施している。 室内温度管理を行い、冬場は、湯たんぽを活用気持ちよく睡眠できる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋ファイルを作成し、職員が何時見ても確認できるように行っている。 毎食時、与薬確認の担当者を設けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お本人の生活歴を知り、若い時の仕事・趣味等を職員が把握し、アプローチを行っており、生き生きと生活できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、テラスに出て、歌会や散歩等を行うことで、季節感を感じて頂いている。	高齢と重度化傾向に、自ら外出を希望される方は殆どなく、敷地内の散歩やデッキでの外気浴も疲れを寄せられる現状にある。この1年、車での外出などは行われていないが、入居者の中には介護タクシーを利用しながら家族と外出される方もおられる。	季節や天候等により、安全面に配慮しながらの外出や、外気浴など入居者に応じ支援いただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力・認知症の症状を見ながら、本人の希望と家族の意見を聞き、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、職員が電話を掛け対応している。 また、レクの一貫で暑中見舞いや年賀状を作成し、家族へ郵送している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、湿度計・加湿器等を設置し対応している。 共用部は朝日が昇るのを見ることができ、ソファや椅子等で自由に過ごすことができる。	立地面から地域を一望でき、ホームに居ながらにして初日の出を拝める環境にあり、特にデッキは開放感のある場所である。ホール内には職員と一緒に取り組んだ書やキッズサポーターの小学生からの手紙などが掲示されている。また、季節に応じた室温管理や加湿器を使用しながら、健康面にも配慮した環境に努め、身体状況に応じテーブルを配置している。	経年と共に老朽化は否めないが、定期的に掲示物や置物など傷みや汚れなどを確認し、改善していくことも必要かと思われる。特に、玄関先については安全や景観面等を考慮した環境について、全職員で検討いただきたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者のADLに合わせ、テーブルの配置を考慮し、環境面を把握しつつ落ち着く居場所作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に本人・家族と相談し、決めている。 居室は、個々の希望に応じて馴染みの物を持ってきて頂き、安らげる空間になるよう努めている。	現在は施設や医療機関からの入居が多いが、入居時に好きなものや使用していた家具などの持ち込みを提案している。身体状況に合わせベッドの高さや配置を行い、季節に応じた寝具は家族の協力が得られ、ベランダデッキで布団干しも行われている。入居歴などにより持ち込みの品や量も様々であるが、仏壇・位牌を置かれた居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札・カレンダー・家族の与具を活用している。 また、トイレ等の場所が分かるよう表示している。 歩行者・車椅子の方が安全に考慮している。		